

協会けんぽの 2022(令和4)年度決算見込み(医療分)について

<協会会計と国の特別会計との合算ベース>

令和5年7月7日

全国健康保険協会

<全体の収支状況>

- 2022年度は収入(総額)が11兆3,093億円、支出(総額)が10兆8,774億円となり、収支差は4,319億円となりました。

<収入の状況>

- 収入(総額)は前年度から1,813億円の増加となりました。主に「保険料収入」が1,868億円増加したことによるものですが、これは、賃金(標準報酬月額)が+2.0%増加したことが主な要因です。
(なお、賃金の伸び+2.0%は協会による医療保険の運営が始まった2008年以降で最も高い伸びとなりましたが、近年保険料収入を増加させていた被保険者数については、2022年10月の制度改正により、国や自治体等に勤務する短時間労働者等が共済組合に移行したことから、+0.1%の増加にとどまっています。)

<支出の状況>

- 支出(総額)は前年度から486億円の増加となりました。
- 保険給付費(総額)については、前年度から2,502億円増加しました。これは、加入者数は0.8%減少したものの、医療費(加入者1人当たり医療給付費)が4.4%増加したことが主な要因です。
- 拠出金等については、1,271億円減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う2020年度の高齢者の医療費の一時的な減少により、後期高齢者支援金の返還額(戻り分1,901億円)の影響が大きかったことが主な要因です。

<本決算のポイント>

- 収支差は前年度比で増加(+1,328億円)しましたが、この要因は、保険料収入の増加(+1,868億円)より保険給付費の増加(+2,502億円)が上回ったものの、後期高齢者支援金に多額の精算※(戻り分1,901億円)が生じたこと等により支出の伸びが抑えられたことによるもので、一時的な特殊事情によるものです。
※ 概算で拠出した支援金は2年後に精算される仕組みとなっています。
- 協会けんぽの今後の財政については、収入面では、被保険者数の伸びが鈍化していることや、不安定な海外情勢や物価高の影響等で経済の先行きが不透明であること等に鑑みると、これまでのような保険料収入の増加が今後も続くことは期待し難い状況です。一方、支出面では、2021年度に協会発足以来最高の+8.6%の高い伸びとなった加入者一人当たり医療給付費が、2022年度も引き続き+4.4%と大きく伸びていることや、今後も、後期高齢者支援金の増加が見込まれること等を踏まえると、楽観を許さない状況です。